

2020年8月10日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第2戦富士、奮闘の 6位フィニッシュで 連続ポイントを獲得

SUPER GT 第2戦富士レポート



2020 SUPER GT 第2戦「たかのこのホテル FUJI GT 300km RACE」(8/8-9)

富士スピードウェイ(1周4.563km)

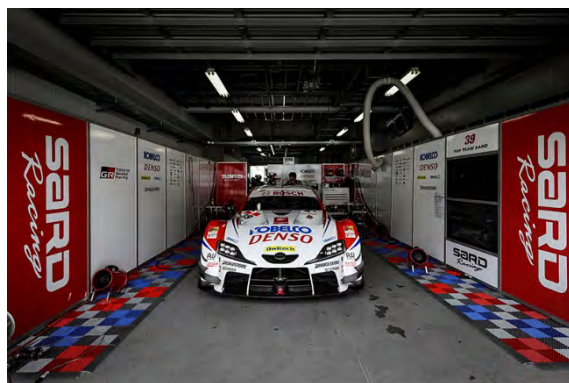
8月9日(日)、SUPER GT第2戦「たかのこのホテル FUJI GT 300km RACE」の決勝が行われ、3番グリッドから一意専心に勝利を狙っていったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、路面コンディション変化とクルマの決勝セットの合わせ込みの最適解が得られずに苦しい展開の序盤で、中山がペースを上げようと奮闘を見せるも後退を余儀なくされた。27周を終えピットイン。素早いピットワークで一時3台ほど逆転してライバル勢の前で戦列復帰するも、交代した阪口の担当した後半もペース維持に苦しむ展開に。しかしながら最後まで粘り強く踏みとどまりチェッカー。結果、6位となり貴重な開幕2戦連続でのポイント獲得となった。

ドライバーポイントでは5点(計11点)を獲得、チームポイントでは8点(計17点)を獲得して何れもランキング6位に。引き続き無観客で行われることとなった次戦は、8月22日(土)・23日(日)に鈴鹿サーキットで第3戦として開催される。入国制限中であつたヘイキ・コバライネンも8月5日からの制限緩和により、この第3戦鈴鹿から復帰できることになった。

■事前情報

約3ヶ月遅れで開幕となった2020年シーズン初戦は悔しさが残る5位フィニッシュとなったDENSO KOBELCO SARD GR Supra。第2戦は、開幕戦と同じく富士スピードウェイが舞台となる。8月8日(土)午前に公式練習、午後にノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選で、9日(日)決勝は13時スタートの300km(66周:約2時間)と通常の2dayスケジュールで争われる。ドライバー交代を伴うピットストップは1回が義務付けで、今回のウェイトハンディは現獲得ポイントの倍となる12kgを搭載する。第2戦も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、引き続き様々な感染対策を講じて無観客での開催に。また、当初の第1ドライバー登録のヘイキ・コバライネンが引き続き入国制限を受けており、第1ドライバーに中山雄一を登録。開幕戦で登録した山下健太が別のレースプログラムのため、第2ドライバーには阪口晴南を登録した。

開幕戦では決勝ペースが上らずとも5位と健闘しポイントを獲得。まだまだ速くなる要素が残っており、連戦となるこの富士で連続ポイント獲得はもちろん、ポディウムフィニッシュは死守したいところ。梅雨が明けて暑く非常にタフな戦いを強いられると予想されるが、新進気鋭の若武者を加え、ひたむきに努力して一意専心、チーム一丸に勝利を狙っていった。



■公式練習走行

8日（土）通常のスケジュールとなる午前中に設定された公式練習走行は9時45分から開始。曇りとなった天候の中、気温28度/路面温度39度と高いコンディションで90分間の混走セッションが開始された。埃などが捌けて路面コンディションが改善された頃を見計らって、まずは中山がソフト系ドライタイヤを装着して、タイヤのパフォーマンスを9周チェック。続いて赤旗中断を挟みながらハード系タイヤを装着して同じく9周を走行し、9番手タイムを刻む。続いて19周目から今回GT500デビューとなる阪口が中山が評価した2種類のタイヤのリピート評価を、途中セット調整を行いながら混走セッションが赤旗打ち切りとなるまで、19周にわたって慣熟および確認走行を行った。混走セッションは中山がマークした1分29秒594の10番手となった。10分間のGT500単独セッションでは、阪口がソフト系タイヤでアタックシミュレーションを実施し、1分29秒157の11番手のタイムとなった。公式練習走行ではトータル42周を走行。これまでのデータ分析からは開幕戦のセットから大きく進化しており、公式予選用に温存したハード系タイヤを装着してミス無くアタックできれば上位グリッドも見えてきていた。



■公式予選

■Q1：中山が値千金のアタックを見せ2位でQ2進出を決める

8日（土）15時03分Q1開始時点では気温28度/路面温度38度の曇り空。開始から残り9分でコースインした第1ドライバー登録の中山。温存しておいたハード系タイヤを装着して早めにコースイン。しっかりとタイヤに熱を入れてウォーミングアップを重ねていく。5周目のセクター3でタイヤのグリップを感じて6周目にアタックを開始。トップに引けを取らないタイムでセクター1を駆け抜けると、セクター2で26秒台と続けて区間自己ベストを刻む。セクター3でややタイムダウンしてしまったが、見事に最終ラップで1分27秒602を刻み値千金の2位でQ2進出を決めた。



■Q2：阪口がGT500デビュー戦で3番グリッドを獲得

Q2開始時点では気温27度/路面温度34度に下降。開始早々に1番真っ先にコースインしていった阪口。中山にタイムの出し方をインターンで伝授してもらい、ハード系タイヤを装着してタイヤを温めていく。5周目にタイヤのグリップを感じてアタックに入り、セクター1で中山に迫る22秒台をマーク。セクター2でも自己ベストをマーク。セクター3でも自己ベストをマークして1分27秒729の3番手と好タイム。さらに続けてタイムを縮めようと次の周もアタック続行を敢行。懸命にドライビングを続けたが、ピークを過ぎてしまったのかセクタータイムの更新ならず。1分27秒729タイムでGT500デビュー戦で3番グリッドを獲得してみせた。



■決勝

■ウォームアップ走行

9日（日）11時40分から開始されたスタート前20分間のウォームアップ走行は、気温29度/路面温度39度のコンディション。まずはピットアウト時のジャッキダウンからのスタート練習を阪口が行ったあとに、スタート担当の中山が決勝スタートタイヤと同スペックの22周走行したハード系ユーズドタイヤを装着してタイヤの様子をロングで確認。ウォームアップ走行は11周を走行して、1分30秒670の13番手タイムとなった。

■決勝レース

第1スティント：コンディション変化に最適解を得られず奮闘の中山

9日（日）13時決勝スタート時点は気温29度/路面温度40度の薄曇りのコンディション。実はもう少し暑くなると予想されたが路気温ともに見込みよりも低いコンディションとなり、これが予選での速さを決勝で発揮できなかった要因にもなった。スターティンググリッドでコンディションに合わせた調整を実施。3番グリッドから一意専心に勝利を狙っていった中山が駆るDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、スタート直後からペースが上げられない様子でポジションダウン。路面コンディション変化とクルマの決勝セットの合わせ込みの最適解が得られずに苦しい展開の序盤となった。懸命に中山がペースを上げようと奮闘を見せるも、8周目に5位まで後退を余儀なくされた。ポジションを争う他車のピットインの動向を脇阪寿一監督がウォッチしつつ、27周を終え逆転への勝負どころとなるピットインを敢行した。



第2スティント：阪口が終盤に粘り強くポジションキープ

最適なタイミングと素早いピットワークもあって、一時3台ほど順位を逆転してライバル勢の前に戦列復帰することに成功。だが交代した阪口の担当した後半もペース維持に苦しみ展開で数周でポジションダウンを喫してしまう。スティント中盤になると踏ん張りを見せて前走車とのギャップを詰めつつあったが、後方からペースを上げてきた100号車に56周目ポジションを奪われる。だが、その後は追いつがってくる後続車を引き離してポジションをキープする粘り強さをを見せて、そのままチェッカー。貴重な開幕2戦連続のポイント獲得となった。ドライバーポイントでは5点（計11点）を獲得、チームポイントでは8点（計17点）を獲得して何れもランキング6位に。引き続き無観客で行われることとなった次戦は、8月22日（土）・23日（日）に鈴鹿サーキットで第3戦として開催される。また、入国制限中であったヘイキ・コバライネンが、政府の8月5日からの在留資格取得者への入国制限緩和措置によって、14日間の指定場所待機を経た後によりやうく、この第3戦鈴鹿から復帰できることになった。





■中山 雄一

「6位でのフィニッシュとなりました。決勝でペースが上がらず苦しい展開でしたが、レース終盤の阪口選手のがんばりでなんとか踏みとどまることができました。新生チームとして確実に進歩してきていることを感じていますが、あともう一步です。苦しみながら悔しい2戦を戦って新しいデータも蓄積されてきていますし、貴重な連続ポイントを得られました。すぐ2週間後には第3戦鈴鹿ですので、今度こそは表彰台に上がれるようにエンジニアと積極的にコミュニケーションを取りながら良い準備を進めていきます。引き続き御声援のほどよろしくお願い申し上げます」



■阪口 晴南

「スポットでこのような機会を頂きトヨタ／TCDさんや関係各位、協阪監督、雄一さん始めサードチームの皆様、そして快く送り出してくれたK-tunes Racingに感謝いたします。ありがとうございました。決勝では正式結果で6位となりました。ペースが厳しくて、思い描いていたレースができず、とても悔しいです。と同時に自分の足りないところがレースではっきり出たと思います。今こうやって気付かされた事は財産です。これを活かして、これからも頑張っていきたいと思います。次戦鈴鹿はK-tunes Racingに戻ってのレース。短期間でも成長した事を証明してみせたいです」



■監督 協阪 寿一

「我々の力不足という事です。予選までは何とかなりましたが、色々な要素が絡んでくる決勝となって、力の差が露呈した結果です。しっかり課題を見つけて次に繋がります。とは言え、チーム力は開幕戦に比べて格段に上がっていますし、チームスタッフ一人一人の顔つきも変わっています。しっかり正しい取り組みを続けていくしかない。頑張ります。次の鈴鹿までに、もっと力をつけて強いチームにします。当たり前の事をしっかりとこなし、やるべき事をやり、強さを見せるGR Supra勢の中で置いてかれないように進歩していきます。引き続き応援よろしくお願いします」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	WH
1	8	ARTA NSX-GT	野尻 智紀／福住 仁嶺	*1'27.300	6
2	17	KEIHIN NSX-GT	塚越 広大／B.バゲット	*1'27.459	0
3	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	中山 雄一／阪口 晴南	*1'27.729	12

天候：曇り、コース：ドライ、Timeの*印はQ2ベスト

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	17	KEIHIN NSX-GT	塚越 広大／B.バゲット	1:41'37.698	66
2	36	au TOM'S GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	+15.762	66
3	14	WAKO'S 4CR GR Supra	大嶋 和也／坪井 翔	+33.686	66
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	中山 雄一／阪口 晴南	+45.449	66

天候：晴れ、コース：ドライ、4.563km×66Laps

■ Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	36	関口／フェネストラズ	30
2	37	平川／キャシディ	29
3	14	大嶋／坪井	22
6	39	中山	11
9	39	山下	6
10	39	阪口	5

Point standings after Rd.2

■ Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	36	TGR TEAM au TOM'S	36
2	37	TGR TEAM KeePer TOM'S	34
3	14	TGR TEAM WAKO'S ROOKIE	28
6	39	TGR TEAM SARD	17

Point standings after Rd.2

■ Partners

TOYOTA

豊田自動織機

TOYOTA
FINANCIAL SERVICES

INOS

Mizuno

hp

admic

TOYOTA
GAZOO
Racing

AW
A1010 AW

Owltech

HAYASHI
TELEMPU

BBS

Altair

MOTUL

DENSO

JTEKT

TENNECO

ADVICS

SALOMON
RACING TEAM

LG

EBBRO

KOBELCO

豊田合成

千葉トヨペット

小松開発工業

SUUNTO

MAKE
WINNER

ALI

Racing Development
TRD

KITO

豊田通商

Jms

ATOMIC

GruppeM
Racing Inc.

Kobelco Steelers
KOBELCO STEEL RUGBY CLUB

BRIDGESTONE

進和

FUJIMAKI
GROUP

中京化成工業

KARL STORZ ND Tec

UNIMAT LIFE

■ 情報参照先

- サード公式サイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : https://twitter.com/SARD_Racing
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/team_sard/
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp